

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間：2010年10月下旬から12月上旬までの旬別
 対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業：さんま棒受網漁業
 対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量：来遊量は徐々に減少し、10月下旬は低位水準となり、11月上旬には断続的となる。

(2) 漁場：10月下旬～11月上旬は襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬には終漁となる。

2) 三陸海域

(1) 来遊量：10月下旬は低位水準であるが、来遊量は徐々に増加し、11月上旬は中位水準となる。11月中旬から減少し、低位水準となり、12月上旬には断続的となる。

(2) 漁場：10月下旬～11月上旬は、三陸北部～南部に漁場が形成される。11月中旬に北部の漁場が消滅し、漁場は南部のみとなる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量：10月下旬は断続的ではあるが来遊がある。11月上旬は低位水準であるが、来遊量は徐々に増加し、11月中旬～下旬は中位水準となる。11月下旬には減少を始め、12月上旬は低位水準となる。

(2) 漁場：10月下旬～11月上旬は、常磐北部において漁場が形成される。11月中旬に漁場が南部まで広がる。

2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少	断続的			
	漁 場	襟裳岬沖	襟裳岬沖			
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	中位減少	低位減少	断続的
	漁 場	北部～南部	北部～南部	南部	南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	低位増加	中位増加	中位減少	低位減少
	漁 場	北部	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部

3. 漁況の経過概要

(10月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月下旬を上回り、中位水準となった。前年と比べると大幅に下回っている。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半に来遊量は徐々に増加した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石～厚岸大黒島沖、釧路～襟裳岬沖であった。

落石南南東 30～80 海里～厚岸大黒島南 20 海里付近(表面水温 11～16℃)。連日、大型船数隻～30 隻程度と小型船が多数操業。大型船で 10～60 トン、小型船で 4～25 トン程度漁獲。

釧路南 30 海里～襟裳岬南東 25 海里付近(表面水温 14～17℃)。連日、大型船が 10～30 隻程度と小型船が数隻操業。大型船で 5～75 トン漁獲。

襟裳岬南南東 75～南南西 120 海里付近(表面水温 14～18℃)。ほぼ連日、大型船が数隻～35 隻程度操業。数トン～105 トン漁獲。

(3) 魚体

30cm モードの大型魚主体だが、25～27cm モードの中型魚主体の群もある。大型魚は体重 140～150g 台が多い。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月下旬を上回ったものの、前年同様、低位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期半ばから来遊量は徐々に増加した。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、久慈沖であった。

久慈東南東 50～70 海里付近(表面水温 16～18℃)。5 日夜以降、大型船が数隻～25 隻程度操業。最高 80 トン漁獲する船もあったが、多くは 0.5～35 トン程度。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚主体。